

社会福祉法人カリヨン子どもセンター

大丈夫。一緒に考えよう。
ひとりぼっちじゃないんだよ。あなたは大切な人。

News Carillon No.54

監事として、学習ボランティアとして

井戸川 真也

(税理士・社会福祉士／カリヨ子どもセンター監事)

1. はじめに

みなさん、はじめまして。監事の井戸川と申します。文章を書くのは苦手な方なのですが、最後までお読みいただけますと幸いです。

まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。私はちょうど4年ほど前に税理士登録し、開業しました。時を同じくして大学院の先輩である馬淵理事からお話をいただき、カリヨンとのお付き合いがスタートしています。当時は税理士としてもペーパーでしたが、福祉のことも全くわかりません。そのため付け焼き刃ではありますが、社会福祉士の勉強をし、児童養護施設での実習や一時保護所の夜間指導員としての勤務を通じて少しかり現場のことも学んできました。そこから徐々に福祉との関わりも増え、母子生活支援施設のお母さま方に簿記の勉強を教えたり、社会的養護経験者向けシェアハウスに居住する若者をアルバイトで採用したりして現在に至ります。

2. カリヨンでの役割

カリヨンでは監事という職に就いています。監事には大きく2つの役割があり、理事の業務内容をチェックすること、そして、お金の使い方や会計処理のチェックすることです。私は税理士という立場から、お金に関するチェックを主に担当しています。組織としてのお金の使い方は後程お話しするとして、カリヨンでは監事業務のほか、過去に二人の入居者に対し簿記の学習ボランティアをさせていただきました。税理士としてのバイアスがかかってしまいましたが、簿記の勉強は社会人スキルとしてだけではなくお金の考え方を学ぶにも有用です。また、試験は諦めなければ何度でもチャレンジできますから、失敗を恐れずに少しずつ成長を実感しながら取り組めるのも良いところです。

シェルターに居る時間をどのように使うかは彼らの裁量だと思いますが、その中で将来を見据

INDEX

- 「監事として、学習ボランティアとして」 … 1
- 子どもの家ボーイズから Part.30 「自由の序の口」 … 3
- とびらの家通信 Part.43 「新年度、利用者全員が学生に」 … 4
- タやけ荘便り Part.39 「細く長く楽しいお付き合い」 … 5
- カリヨンハウス smile 通信 … 6
- 子どもの家ガールズとともに Part.45 「七夕のしつらえ」 … 8
- 2023 年度事業報告・決算報告 … 9

えて資格の勉強をしようと考えられることは非常に素晴らしいことだと思います。若者が興味を持ちながら勉強に取り組んでいるのを見て、私もサポートをしながら彼らからモチベーションをもらうことができました。1つ残念なのは、シェルターの性質上入居期間が短いため、継続した学習のサポートができなかったことでしょうか。彼らが退居後も興味をもって資格の勉強を続け、試験にチャレンジしてくれることを願っています。

今後も簿記の学習ボランティアは続ける予定ではありますので、希望者がいればぜひ遠慮なくご連絡ください。

3. 組織としてのお金の使い方

さて、ここからもう少し真面目な話題となりますが、税理士の視点でお金の使い方についてお話しできればと思います。特に利益をどう配分するかは組織が持続的に活動するために非常に高度な経営判断が必要です。ポイントは2つで、何にいくら配分するか、そして、いつ配分するかです。

1つ目の何に配分するかについて、私はいつも顧問先には次のように伝えています。利益の3分の1は納税の義務を果たし、残りの3分の1は「ヒト」に、最後の3分の1は「モノ」に投資しましょう。もちろん、どのような事業をされているかによって、比重をヒトにおくのか、モノにおくのかは若干変わってきますが、いずれにしてもバランスをしっかりと考える必要があります。そして、社会福祉法人はその非営利性から納税が免除されていることが多く、カリヨンも法人税の納税義務はありません。本来納税にまわるはずの

3分の1についてどこに配分するのは、納税の義務に相当する公益的なものへの支出が妥当するのではないのでしょうか。

2つ目のいつ配分するかについては、過去、現在、未来にわけられます。過去というのは例えば借金の返済などをいいます。借金は悪いことのように言われますが、個人でも住宅ローンなど目的がはっきりしている借金であれば否定されるのではなく、むしろ終の棲家を得ることは未来につながります。逆に、日本人の性格として貯蓄を是とする意識が強いですが、目的のない貯蓄は過度な節約により現在を削ることになりかねず、貯蓄することが100%正しいともいえません。特に、個人であれば貯蓄したものを最終的に使うのは本人かもしれませんが、組織においての貯蓄は、貯蓄をした人とその貯蓄を使う人が異なる場合もあり、今頑張っている人たちの意欲を損なう可能性があるため注意が必要です。

まとめると、「ヒト」「モノ」「公益」という3つの分類を、さらに「過去」「現在」「未来」という3つの時間軸で分類し、お金の使い方を考えていくと明瞭で納得のいく利益の配分ができるのではないかと考えます。

4. おわりに

私の役割は現場のことも理解しながらカリヨンがより長く、よりたくさん子ども・若者を支援できるように組織運営をサポートしていくことだと思っています。引き続きカリヨンのお役に立てたならば幸いです。🍉



2024年12月に、
20周年記念イベント
開催を準備中です！

カリヨン子どもセンター 設立 20 周年！

2004年6月24日、カリヨン子どもセンターはNPO法人として活動を開始し(2008年より社会福祉法人)、2024年に設立20周年を迎えました。20年間、すべての事業を通じて500名を超える子どもたちと出会い、ひとりひとりの言葉に耳を傾け、一緒にご飯を食べ、共に泣き笑い、巣立ちを見送ってこられたことは、ひとえに、たくさんの皆様のご支援、叱咤激励をいただいたおかげ、多くの子どもたちみんなが子どもシェルター、自立援助ホームの生活に協力してくれたおかげです。皆様へ、心からの感謝を申し上げます。



子どもの家ボーイズから Part.30

自由の序の口

あじさい色の雲を蹴破り新選組のように斬り付けてくる7月の太陽光。夏が来たのです。夏と言えば家出からの事件事故。夏休み終りに若者の自殺が増える。福祉の夏の永遠のテーマです。カリヨンのシェルターってのがあつぞ、と一声届けばよいのですが。できないことはいっぱいあるけど、家出しか方法ないならシェルターあつぞ。弁護士いるぞ。事前に相談しとくといいぞ。18歳以上でも大丈夫。相談だけで入居はナシでも大丈夫。

実際、家庭不和や自傷他害しそうな恐怖からの避難、あっちよりはマシだろうと見当つけてここに来る利用者さんは多いです。通信機器の預かりや外出制限など、自宅やその日限りの知人宅や路上生活より不自由は多いけれども。それでもあそこよりはマシだと思えるならば。そしてここに来た利用者さんの何人かは言う、シェルターに来てやっと休めた。シェルターに来たら自由があつた。

えっ。職員は耳を疑う。自由があつた？ 嘘でしょ、軟禁みたいな暮らしだという人もいるのに。利用者さんは言う、ここは自由に考えることができるし自由に話すことができる。将来の夢を話すことができる。だからここには自由がある。(「大人は俺の夢の大変さを俺に教えるのは正しいけど、俺の夢を否定するのは間違っている！」とも言っていました。) 家出してる時に買った本があるんですけど部屋から持って来ていいですか？ 別に悪い本じゃないです、女性のヌードはあるけど。それはイラストの技術書でした。税込¥8000 幾らの専門的な、海外の名のある絵師によるプロ仕様だ。中学からバイトして貯金してた。家にいたら買えなかつた。家出しないと買えない本がある人生。彼にとってシェルターは、自由があつた、と発表するほど感じられた。そういう人は長い人生、自由の舵輪を決して手放さないかもしれません。

自由とは何か。少なくともボーイズで筋トレに熱中するのは自由。大した器具は(置け)ないから

腕立て伏せが人気爆発。やる時間はいくらでもあつる。みんなで励まし合つて、1回もできなかったのが5回、10回、100回できるようになる。退居日には胸から背中の中の厚みがブラウン管テレビみたいになっていた利用者さんもいました。入居の日に着てた服はもうぱつぱら！

大谷選手を見て野球をする自由。『スラムダンク』を見てバスケットをする自由。「それはサッカーが自由だからだ」という日向くんの覚醒を知らず追体験する自由。ボールをめくり瑞獣のように動く利用者さんたちに魅了され、弁護士さんも職員さんも納豆みみたいな汗をかきかき驚馬のギャロップする自由。

アイドルに夢中になるのも自由。「人生は素晴らしいものだけど子どもの頃に思っていたほどではなかつたです、乃木坂46を除いては。」という利用者さん。わたしは乃木坂よりもあなたのその発言の方に胸を衝かれます、と思う職員。

「中学生の時に白石さんに頭撫でてもらったことがあります。握手会で。なにか部活やってるの？ って聞かれて、サッカー部ですって言ったら、頑張つてね～って。」 それは羨ましいな！ 声を大にするV職員。中学生ならまいやんも頭撫でられますよね、とB職員。

マンガや歌や小説が自由を示す羅針盤、自由そのものだった利用者さんたちがいます。ボーイズ図書室に立ち、汗牛充棟の背表紙と見つめ合う。『JOJO』第6部、消えゆくF・Fは言う。これが「知性」なんだ 最後の最後にそれを考えることができた これがあたしの「知性」 あたしは生きていた これがあたしなの、さよならを言うあたしなのよ。F・Fが自由に生きたということは、エラスムス司祭もうべなうのではなかつたか。そうでないにせよ、子どもシェルターは利用者さんの安全な休息地であり、自由の序の口になっていけばよいと思います。

皆様の変わらぬご厚情、ご支援に心より感謝申し上げます。暑さ厳しき折、どうぞご自愛くださいませようお願い申し上げます。🍉

(ボーイズ 職員一同)



とびらの家通信 Part.43

新年度、利用者全員が学生に

とびらの家は、2024年度、5名の子どもたちとスタートしました。何と、全員が学生です。(大学生2名、専門学校生2名、高校生1名)
 先ず、浪人の末今年大学に合格した彼の事をお伝えしたいと思います。

『幼い頃よりネグレクトを受けていた私が【自立援助ホーム】に入った事で、様々な価値観を取得し、可能性を広げる事が出来ました。この様な私のケースは稀であり、悪い環境にいる児童の大半が将来の可能性を意図せず狭めています。その様な事を無くす為に、私は様々な側面からアプローチしたいと考え、大学では『周辺環境が及ぼす人格形成』について学んでいきたいと考えています。』
 (入居時：高校1年生／現在：大学1年生)

これは彼がコストコ奨学金申請時に綴った文章の一文です。

自立援助ホームからの進学も、様々な奨学金に支えられ可能性が広がってきていたので、彼には入居当初から【進学】を勧めていましたが、高校3年生になっても【進学】の言葉は聞けずにいました。

彼も、何をしたいか?? したいか?? 分からずに生活していたのだと思います。そんな時、大学生になった先輩入居者に「とりあえず勉強してみたら」とのアドバイスを受け……なんと、その気になったのです。

我々のアドバイスは?? そんなものなの?? やはり年齢の近い者からの声は凄い力になるのだ、と実感しました。(それだけではありません。やはり、我々の地道なアドバイスが実を結んだ賜物であるとも解釈しましょう)

結果は……惜しくも。。受験勉強を開始した時期で周囲に後れを取っていた彼にはいかんせん不利でした。それでも、【志望校進学】を諦め

きれない彼の熱意を酌んで、支援金を活用して浪人生活を支援しました。もう1年の受験勉強生活を経て、今年の春は桜が咲きました!

ここでの生活がまさしく幼い頃からの彼の環境のとびらを開いた時期となったのだと思います。彼からの『様々な価値観を取得し、可能性を広げる事が出来た』との言葉を嬉しく受け止め、今後も彼を応援していきます。(彼は間もなく、大学の近くのアパートでの生活に変わります)

彼が引越しの準備をし始めていると、他の4名の子どもたちも考える事があるようでした。(同年代パワー：ここでも!) 目標達成し、新しい生活に向かう彼を労いながら『よし、自分も!』と、気を引き締める雰囲気も漂ってきました。授業やアルバイトの中だるみを反省する場面も一瞬(笑)ありました。

全員が学生、と申し上げましたが、彼らには先ず【卒業】を目標にしよう、と言っています。資格は自立の【安心・自信】材料となる旨お伝えし、卒業以外にもいろいろな資格取得に挑戦してみて、と案内している所です。

以前は18歳になるのが待ち遠しく、普通自動車免許証を取りに行っていた子どもたちが多くいましたが、これに関しては、最近あまり積極的ではないようです。「どうせ運転しない」「取りたいけど面倒」(ドライバー不足が言われておりますが、心配になってしまう現状がここにあります)

「面倒」ということばは最近、生活の全てに使われ、片付けられている様にも思います。「何気ない事が出来るっていいよね」と常々話していますが、また「面倒」で返されます。唯一、スマホだけは「面倒」から除外されています(これが曲者と思う事度々)。スマホの使い方も含め(私にとっては一番大変な事案)、今まで以上に根気よく、丁寧に子どもたちと生活しながら巣立ちへの準備期間を共に暮らしていきたいと思っています。

さあ、彼の引っ越し準備しましょう。🍉

(とびらの家 K.S)



タヤけ荘便り Part.39 細く長く楽しいお付き合い

2024年が始まり早、半年。3月と4月に新入居があり、6月1日時点で定員一杯の6名入居。ホーム内は賑やかな毎日です。

人数が多いと楽しいことも煩わしいことも増えますが、子どもたち、職員スタッフが快適な日常を送れるよう、協力し合っております。

さてこの間、ご報告したい事が盛り沢山です。職員のリレー形式で報告いたします。

その1 ディズニーシーへの遠足

2月中旬、職員4名、子ども4名に加え、当時ボランティアスタッフだった諸橋さんの計9名の大所帯でディズニーシーへ行きました！

この日は皆でショーを観たり、分かれて各々乗りたいアトラクションへ並んだりと伸び伸び遊ぶことができました。

冬真っ盛りだというのに、どこか春めいた陽が出ていて、ジャンボリミッキーを踊ると僅かに汗ばむような、恵まれた陽気でした。

最後は皆で合流し、世界中の空を冒険するソアリンというアトラクションに乗りました。空の旅は人類が求め続けた冒険です、未知の連続は胸弾むようであり、不安にもなります、いい匂いのする草原や、広い海の上を飛びながらそれぞれの笑顔を活かべた我々はいつもより少し遅い帰路に着くのでした。

タヤけ荘の門限は夜の22時半ですが、この時間はじっくりディズニーを楽しむのには少しりません、ですからこの日ばかりは門限も消灯時間もなく、遅い夜の道を見ながらフラフラ、うとうと歩いて、非日常の続きとして、



明日の朝ご飯をみんな好きに選んで買って帰りました。玄関をくぐると「帰ってきた！！」と何だか皆ほっとした様子、冒険は帰る場所があるから楽しいのだなあと思った遠足とくたびれた両足でありました。

職員、子ども共に楽しく素敵な思い出となりました。助成くださった篠原欣子記念財団様、本当にありがとうございました。

その2 ひな祭りパーティー

☆多ひなまつり～桃の節句は、タヤけ荘のお誕生日。今年は、ひな祭りをやろうと思う！！と思いついたが吉日。コロナ禍で、対面のひな祭りパーティーも中止していたため、4年ぶりの開催。タヤけ荘にとってのひな祭りは、開設記念日でもあり、里帰りイベントでもあります。携わってきたスタッフやOGに集まってもらいたいと始まったイベントであることを知り、そんな素敵なイベントがあるんだと感動しました！

これまではタヤけ荘で開催されていましたが、卒業生も増え、手狭になったので、今回は六右衛門屋敷をお借りすることになりました。23名からお返事をいただき、当日実際に参加されたのは職員7名、元職員1名、OG3名、OGの家族1名、現役生1名の計13名でした。

タヤけ荘からお連れしたお内裏様とお雛様が見守る中、手作りのお料理が並んだテーブルにOGがやってきます。かつて一緒に過ごした職員との懐かしい思い出話に、沢山の笑い声が響き渡ります。初めましての職員ともご挨拶。現役生にとっても、先輩たちと過ごす時間は貴重なものとなったようです。寄付で頂いていたものの中から、これがあると助かる、これもいただきたいと、自分で好きなものを詰め合わせ、お土産も完璧です。

楽しい時間はあっという間に過ぎていきます。終わりの時間が近づき、みんなで記念撮影。みんなで後片付けを済ませ、尽きることのないおしゃべりをしながら、街灯に照らされた坂道を下り、駅に向かいます。また来年、ひな祭りに会いましょう。☆多

その3 新任職員から自己紹介

2024年4月にカリオンタヤけ荘に入職しました。諸橋莉子と申します。

大学では、児童養護施設やタヤけ荘での実習を通して、児童養護施設を退所した後や、高年齢まで社会的養護に関わることができなかった子どもたちが自立していくことの難しさを痛感しました。また卒業論文では「性風俗嬢が安心して働くことができる環境や福祉について」というテーマで研究を進め、性風俗産業が18歳未満の未成年の若者にとっても「路上のセーフティーネット」となってしまう場合があることや、知的・発達障害、精神疾患等を抱える女性が性風俗業界で働くことにより様々な困難に遭い、日常生活を送ることすら難しくなってしまうことを知りました。研究を進めていく中で、様々な課題を抱えた女性に対する支援についても考えていきたいと思うようになりました。

タヤけ荘が大切にしていることで「細く長いお付き合い」というものがあります。そのことを強く実感したのは、実習中に参加させていただいた2023年度のカリオンBBQイベントです。学生時代からアフターケアにも興味を持っていた私は、自立援助ホームを退居した後も子どもたちとの繋がりは絶やさないという方針はとても素敵で重要なことであり、自分自身もそのような環境で高年齢児童の支援に携わりたいと思うようになりました。「大丈夫、一緒に考えよう。ひとりぼっちじゃないんだよ。あなたは大切なひと」というメッセージがあるように、子どもたちが安心できる場所であることを意識し、子どもたちの将来について一緒に考える姿勢を大切にしていきます。子どもたちとの関わりを通して、自分自身も沢山学んで成長していきたいです。よろしく願いいたします。

2023年度末には日産化学株式会社様からの助成で、電動自転車、冷凍庫、洗濯機を新調させて頂きました。快適度大幅アップでございます。本当にありがとうございました。

タヤけ荘はたくさんの方々を支えられて成り立っています。職員一同感謝を忘れず、子どもたちとの日々を積み重ねて参ります。今後もよろしく願いいたします。🍉（タヤけ荘 職員一同）

カリオンハウス smile 通信

（1）【カリオン独自事業】ケアリーパー伴走弁護士支援制度のスタート！

社会的養護から巣立った方たちを「ケアリーパー」と呼びます。自立援助ホームでは、ケアリーパーへのアフターケア欠かせません。人生のよいときも、そうではないときも、何事もないときも、話し相手になったり、サポートを担えたらと想定していますし、場合によっては、ケアリーパーに、ホームを訪ねてもらうこともできます。

他方、子どもシェルターは、場所秘匿の性質上、気軽に訪問していただくわけにはいきません。子どもシェルターのケアリーパーたちには、カリオンハウスを通じた相談受付や交流を提案していますが、元子ども担当弁護士（コタン）がサポートを続けてくれたら、とても心強いことです。

しかし、ケアリーパーへの元コタンの伴走は、ほぼボランティア活動なのが実情です。子どもシェルター入居中は、日弁連の子どもの権利擁護援助制度が利用できますが、相談者が成人した後に利用できる援助制度は限られています。

カリオンでは、2021年度～2023年度に「ケアリーパー調査」として、元コタン240名（担当したケアリーパー463名）を対象に、アンケート調査を実施、117名のコタンから、ケアリーパー227名分の回答を得て、ケアリーパーから元コタンに、どのような伴走要請があったのかという実態を知ることができました。相談を聞いてほしい、アパートを訪ねてきてほしい、病院や役所へ同行してほしい、関係機関に連絡してほしい……などなど、法律援助とは言い切れないものも含め、命や生活を繋ぐためのサポート要請が寄せられていました。

法律扶助の対象にならないような伴走要請は、

子どもシェルターのケアリーバーだけに限ったニーズでは決してないだろうと思います。子ども家庭庁のケアリーバー支援に利用できる事業、日弁連の援助制度改正を望みながら、それらを待つまでの間、カリヨンでは、独自にボランティア弁護士の活動を促進すべく支援制度をスタートさせました。「ケアリーバー伴走弁護士支援制度」として、他制度が利用できないケアリーバー伴走活動に携わった弁護士に物心両面の補助を送ります。財源は、ご遺贈の特定寄付を充てることとなりました。この事業は、カリヨンハウスの中に位置づけ、法人外部の方も含めた運営委員会で行管理してまいります。

(2) Café & Bar ろくえもんやしき

2024年春、事務局をいれていただいている「六右衛門屋敷」で、1日限りの「Café & Bar ろくえもんやしき」をオープンさせました！カリヨンのケアリーバーの皆さんと、ちゃぶ台を囲んで美味しいごはんを食べながら、焚火を眺めながら、職員やボランティアスタッフと、のんびりおしゃべりしようというイベントです。

1日を通じて、44名の皆さんが訪れてくれました。元子ども担当弁護士さんと待ち合わせて一緒にいらした方、10年ぶりに立派な社会人になった姿を見せてくれた方、遠方からこのイベントのために上京してくれた方もいました。

Caféメニューは、ご支援でいただいたローストビーフや鰻丼、職員やボランティアスタッフさんお手製の本格スパイスカレー、豚汁とおにぎり、揚げパン、ガトーショコラ、シフォンケーキなどなど、お腹いっぱい食べてほしいなあと思いながら、準備しました。

おみやげとして、ご支援いただいた日用品や食料品等をお配りし、他にもボランティアスタッフのご協力を得て制作した、可愛いアイシングクッキーとオリジナルノベルティグッズを。ロゴマークもつくっていただきましたので、1回きりでおしまいというわけにはまいりません。応援しているよ、とエールを送る大切な機会、これからも、工夫しながら、おとなも楽しみなが

ら、実施していければと考えています。また、こうしたイベントの開催ができますのも、支援者の皆様のご支援、ご理解のおかげです。深く感謝申し上げます。🍉(カリヨンハウス 石井花梨)



▲屋外の火エリアは大人気。マシュマロやりんごを焼いておやつにしました。

Photo by Satoshi Oosaka

子どもの家ガールズとともに Part.45

七夕のしつらえ

早いもので2024年の半分も過ぎ去り、いよいよ夏本番です。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

7月上旬、ガールズでは梅雨のじめじめとすっきりしない天気にも愚痴をこぼしながら、七夕の準備にとりかかりました。短冊に願い事を書いたり、折り紙で飾りを作ったり、大人も子どもも楽しみながら取り組んでおります。

子どもが飾り付け用の折り紙の説明書を見ながら取り組んでいる様子を見て、私が「七夕の飾り付けの折り紙もいろいろあるんだね。それにしても丁寧だし器用だね」と感心していると、「何か作ってください。星とかどうですか？鶴はどうですか？」と促され、久しぶりに折り紙に挑戦してみることに。「鶴は難しいから星で」と簡単そうな方を選んでみたものの、いざ取り組んでみるときちんと折るといのはなかなか難しく、それをハサミで切るというのがさらに難しく、素朴な作業のはずなのに悪戦苦闘。完成はしたもののやはりきちんと折れていないため、まっすぐ切れていてもはみ出ている部分が……。それをごまかすためにハサミで切っていると子どもから「最初にちゃんと折らないからですよ」と笑いながら突っ込まれる私……。もう一度挑戦することになりましたが「丁寧に」を実践することがいかに難しいかを実感する結果となり初回と同じようにハサミで調整する私を見て「本当に苦手なんです」と楽しく会話をしながら和やかな時間を過



ごしておりました。その後、他の職員にも飾り付けの折り紙や短冊に願い事を

書くのを勧めたりしてくれたりしているうちにどんどん華やかさが増してきております。

願い事には平和祈願や健康祈願などが書かれておりますが、子どもから「七夕の短冊の願い事は誰が叶えてくれてるんですか？」と質問された私は「たしかに……七夕は織姫と彦星が出会える日ってくらいしか知らないかも……叶えてくれてるのは……星？」となってしまう、

「七夕」というものをきちんと説明することができず、少し調べてみることに。

現在の日本で親しまれている七夕は日本古来の風習（棚機…祖先を祭る前の禊をお盆の一環として、女性が着物を織って棚にお供えし、豊作を願ったり人々の穢れを払ったりする風習）や中国由来の伝説（織姫と彦星の伝説）、中国の「乞巧奠（きこうでん）」という儀式（祭壇に針などを備えて星に祈りを捧げ、織姫にあやかり機織りが上達するようにと願う風習）が掛け合わさってできたものらしいことを知りました。

また、短冊に書く願い事は現在では個人の願い事を書いて吊るすようになってはいますが、もともとは和歌を書いて学問や書道などの上達を願っていたと言われていたことなど私自身知らない事ばかり……。飾り付けにも意味があり、例えば鶴には家内安全や長寿、紙衣には病気や災いが起らないようにと厄除けの意味や、子どもの健やかな成長を願い、身代わりとして流す形代の意味合いなどそれぞれの飾りにちゃんと意味があることも知りました。

これらの内容を子どもに伝えるとなかなかの食いつきを見せ「マジっすか？」と資料をみながら「初めて知りました…」と興味深そうに話を聞いてくれました。「こうやって七夕の意味や飾りの意味など知った上で迎えると今までとは違う感じかもね。」なんて話をしながら、こうした行事に関して他の職員に任せっきりにしてしまい、私自身が子どもに伝えてこれなかったことを反省している今日この頃ですが、当日の天気がどうなるかワクワクしながら楽しい七夕の日を迎えることができればと思っています。🍉

(ガールズ 坂爪弘樹)

社会福祉法人カリヨン子どもセンター 2023 年度 事業報告書

皆様のご支援とご協力に深く御礼申し上げます。
2023 年度（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）の事業についてご報告申し上げます。
今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

子どもシェルター

「カリヨン子どもの家ガールズ」（女子・定員 6 名）

「カリヨン子どもの家ボーイズ」（男子・定員 6 名）

①年間利用実績：年齢別（人）

年齢	ガ	ボ
14 歳未満	0	3
15 歳	2	2
16 歳	3	1
17 歳	4	3
18 歳	4	3
19 歳	3	1
20 歳	0	0
計 (2022 年度からの継続入居者数再掲)	16 (2)	13 (0)

②入居理由（人）

本人の主訴（重複あり）	ガ	ボ
心理的虐待	13	9
身体的虐待	6	7
ネグレクト	3	3
性的虐待	1	1
施設不調	1	0
自立	2	0
金銭搾取	1	1
保護者の病気や不在	0	3
その他	0	3

③家族の状況（人）

家族構成	ガ	ボ
実父母	10	5
ひとり親家庭	4	6
ステップファミリー	0	2
親族	1	0

④入居前に生活していた場所（人）

場所	ガ	ボ
家庭	10	11
児童福祉施設	1	1
親族宅	4	0
友人宅	1	0
会社の寮	0	1

⑤子どもの健康状況

受診した医療機関	精神科・心療内科、内科、外科・整形外科、歯科、皮膚科、眼科、産婦人科・婦人科
ガールズ	通院ニーズ：11 名 (全員の通院回数合計 18 回)
ボーイズ	通院ニーズ：12 名 (全員の通院回数合計 28 回)

⑥退居先実績（人）

退居先	ガ	ボ
家庭復帰	3	1
自立援助ホーム	9	6
(自立援助ホーム以外の) 児童福祉施設	1	0
児童相談所一時保護所（通学可）	1	0
児童相談所一時保護所	0	4
病院	1	2
成人福祉施設	0	1
不明（無断外出）	1	0
計	16	14

⑦職員体制等（人）

職種	ガ	ポ
ホーム長（常勤職員）	1	1
チーフ（常勤職員）	1	1
児童指導員（常勤職員）	2	2
体制強化補助職員（非常勤）	1	1
計	5	5
有償ボランティアスタッフ（日勤）	4	5
有償ボランティアスタッフ（宿直）	2	0
計	6	5

⑧会議の開催状況（回数）

会議名称	ガ	ポ
ケース会議（子どもも参加）	24	15
関係者会議（子どもは不参加）	33	15
家庭調整のための面談等	2	1
職員会議	17	12
【下記 2 件は法人内の自立援助ホームと共同開催 会議（重複のため自立援助ホーム部門に再掲なし）】		
ホーム長会議	5	
全職員会議	2	

⑨職員研修参加回数（出席のべ人数）

ガールズ	ボーイズ
10 回（11 名）	5 回（5 名）

⑩人権擁護への取組み

ガールズ・ボーイズ
<p>・職員やコタンや施設についての苦情や相談ができる「カリヨン権利擁護推進室」という苦情解決窓口があることと、そこへの相談方法を、利用者へ入居時に案内し、同案内を共有空間に掲示している。</p> <p>・上記窓口や職員以外に、児童相談所、コタン、カリヨンハウス職員といった複数関係者へ、利用者が自由に意見を述べる機会が日々ある。</p> <p>・意見表明が困難だと感じている利用者への配慮を慎重に行っていきたい。</p>

[ボーイズ] 週次モニタリングという、職員が各利用者と、ケースワークの進捗確認や利用者の意見を聞き取る時間を毎週設けている。言い残したい苦情があれば、退居時アンケートに書いていってもらうこともできる。

⑪利用者の苦情と対応

ガールズ
<p>・夜間に職員が家事をする音が気になる。 ⇒当該利用者が深夜帯まで部屋の出入りや共有スペースを利用する方であったため、家事時間の確保について検討した。できるだけ希望に沿うよう努めるが、生活と清潔を守るために必要なこともあることへの理解を求めた。</p> <p>・夜間、玄関の電気をつけなくてほしい。居間の電気を消してほしい。 ⇒防犯上必要な場合、他入居者が使用している共有スペースの場合等、難しい場合もあることを伝え、そこについては了承を得た。</p>
ボーイズ
<p>1.マンガの種類を増やして欲しい 2.ヒマを潰せるものが少ない ⇒1,2、マンガ、ゲームを増強した。 3.ゲームをやる時間を決めた方がいい ⇒時宜に応じ利用者と職員の相談とした。 4.あるにはあったが、職員は解決しようとしてくれていたので、そこまで不満は感じなかった</p>

⑫施設的环境改善

ガールズ
浄水器交換、玄関鍵交換、車庫扉のメンテナンス、レーザープリンタ（リース）導入、児童居室整備（ベッド入れ替え、寝具類交換、音響機器交換）、ゲーム機購入
ボーイズ
近隣路上等の清掃、花壇整備、樹木伐採、除草作業、近所への日頃の挨拶

⑬防災対策・避難訓練の実施状況

ガールズ・ボーイズ
<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害訓練の実施。避難用ヘルメット装着、避難リュックの確認と装着。 ・災害避難グッズ整備点検、補充、入替え。 ・地域ハザードマップの掲示、建物内避難経路の掲示と、利用者への説明。 ・町内避難訓練への参加はなし。 ・利用者の心身コンディション、外出制限の範囲によっては、訓練参加が難しい場合がある。
[ガールズ] 蓄電池用のソーラーパネルを導入。

⑭外部機関連携

ガールズ・ボーイズ
子ども担当弁護士、児童相談所（都・特別区・各県）、子ども家庭支援センター、女性相談センター、福祉事務所、病院、学校、自立援助ホーム、児童養護施設、他法人の子どもシェルター、家庭裁判所、民間支援団体、消防（救急搬送）、警察等

⑮2023 年度事業報告まとめ

ガールズ
<p>本人が偽名等を使用し、自主退居する最後まで結局身元がわからない方が 1 名あった。身元がわからないままでも、関係機関で情報共有と役割分担をして、どのような支援の選択肢があるかと協議した。近年、学生生活をサポートしてくれる自立援助ホームが増えたこと、奨学金を含めた支援の充実を受けて、高校生、大学生が通学を生活目標において自立援助ホーム利用を希望をする傾向が続いている。関係者との円滑な連携のために、オンライン会議の活用や事前書類準備に注力しているが、相互理解や行き違いの軽減のためには対面による折衝が不可欠の場面もあると感じている。</p> <p>職員は、2023 年度を新しいチーム編成として活動。まだ阿吽の呼吸とまではいかないまでも、チームビルディングを丁寧に進めている。</p> <p>G P S をたどった追跡を防ぐため、従前より入居希望者には、スマートフォンの電源を切って持参するようお願いしてきた。しかし、機種によっては電源</p>

を切った後も G P S が作動していることが判明。今後は、入居者の同意が得られた場合、一時的にホーム以外の場所で預かるような対応を図る。

ボーイズ

児童相談所からの一時保護委託要請で、短期利用で、すでに退居先や援助方針が確定している場合、子ども担当弁護士の関与をどのように行うかが課題。コタン選任が間に合わず転居になることも。精神不調の訴えがあり、退居先が病院であった方が 2 件。いずれも本人希望により迅速に入院した。2023 年 12 月から職員 1 名が育児休業に入り、年度末で別の 1 名が退職。新規採用も含め、職員体制の再構築が喫緊の課題となった。併せて、男子のシェルターニーズについて関係機関からのヒアリングや法人内での検証、建物や什器備品のオーバーホールの必要性を実感していた。

この一連の事項を「ボーイズリニューアルプロジェクト」として集中的に行うため、実施期間中はシェルター事業を休止することとした。2024 年 1 月頃から、各方面へ休止予定を説明し、また 2 月以降は入居受入れを停止した。最終利用者が 2024 年 3 月に転居し、2024 年 8 月 14 日までプロジェクトを開始した。（リニューアルプロジェクトについては、次号でご報告いたします）



自立援助ホーム

「カリヨンとびらの家」(男子・定員 6名)

「カリヨンタヤけ荘」(女子・定員 6名)

①年間利用実績：年齢別（人）

年齢	と	夕
16 歳	1	1
17 歳	0	0
18 歳	1	2
19 歳	3	0
20 歳	2	2
20 歳以上	0	0
計 (2022 年度からの継続入居者数再掲)	7 (5)	5 (5)

②入居理由（人）

本人の主訴（重複あり）	と	夕
心理的虐待	1	2
身体的虐待	1	2
ネグレクト	0	2
自立	2	0
その他	3	0

③家族の状況（人）

家族構成	と	夕
実父母	3	3
ひとり親家庭	4	2

④入居前に生活していた場所（人）

入居前に生活していた場所	と	夕
家庭	3	2
子どもシェルター	2	1
児童養護施設	2	3

⑤子どもの健康状況

受診した 医療機関	精神科、内科、歯科、皮膚科、 耳鼻咽喉科、産婦人科・婦人科、 眼科
とびら	通院ニーズ：8 名 (全員の通院回数合計 20 回)
タヤけ	通院ニーズ：15 名 (全員の通院回数合計 44 回)

⑥退居先実績（人）

退居先	と	夕
ひとり暮らし、社員寮	0	1
家庭復帰	2	0
計	2	1

⑦職員体制等（人）

職種	と	夕
ホーム長（常勤職員）	1	1
チーフ（常勤職員）	1	1
児童指導員（常勤職員）	2	3
非常勤 ※体制強化職員含む	1	1
計	5	6
有償ボランティアスタッフ（日勤）	3	2
有償ボランティアスタッフ（お庭整備）		1
計	3	3

⑧会議の開催状況（回数）

会議名称	と	夕
ケース会議（子どもも参加）	5	4
関係者会議（子どもは不参加）	3	3
職員会議	12	12

⑨職員研修参加回数（出席のべ人数）

とびらの家	タヤけ荘
18 回（21 名）	33 回（35 名）



⑩子どもたちの就職先

とびらの家・タヤけ荘
飲食業、倉庫・スーパー、スポーツジム テレフォンアポイントメント、レンタカー業 100円ショップ、コンビニ

⑪アフターケア（のべ人数。同児童の同用件は1日分で1回）

対応	とびら	タヤけ
電話・メール相談	388	422
自宅・職場訪問	3	23
来訪	6	11
施設・法人のイベント	7	14
その他	19	20
計	423	490

⑫人権擁護の取組み

とびらの家	タヤけ荘
<ul style="list-style-type: none"> ・児童居室を個室とし、個人空間を保証。内からは施錠も可能。 ・入居時に権利擁護推進室の案内（担当者・連絡方法）し、共有スペースに掲示案内をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども担当弁護士の連絡先も合わせて記した用紙を渡す。 ・カリヨン権利擁護推進室へ、毎月末、理事長や事務局と合わせてホーム近況を報告。
<ul style="list-style-type: none"> ・入居児からの要望に応じて脱衣所ドアに「利用中」札を設置継続。 ・児童居室内の改装を行う際は、入室の同意を得て実施。 ・カリヨン権利擁護推進室ヒアリングの実施（状況報告し、職員からの要望もお伝えする。 	

※カリヨン権利擁護推進室は、今後位置づけを改訂予定

⑬利用者の苦情と対応

とびら	タヤけ荘
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 ⇒入居者への指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ベランダ物干し竿、スリッパ、虫除け用品の補充整備 ⇒即時対応。 ・電動自転車の貸し出し希望 ⇒寄贈受け、2024年度より実施



⑭施設的环境改善

とびらの家
ホーム内美化衛生の徹底、樹木剪定
タヤけ荘
<ul style="list-style-type: none"> ・私道の金網の土台が崩れ、隣マンションより苦情（2024年度4月に修繕予定） ・支援を受け、生活家電等買い替え。

⑮防災対策・避難訓練の実施状況

とびらの家・タヤけ荘
<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害訓練（図上・実踏）の実施。 ・災害避難グッズ整備点検、補充、入替え。 ・入居時に避難場所確認。リビングルームに避難所マップを常時掲示。

⑯外部機関連携・交流促進

	とびらの家	タヤけ荘
連携	児童相談所、子ども担当弁護士、全国自立援助ホーム協議会、東京都社会福祉協議会、医療機関（精神科）、首都圏若者サポートネットワーク・生活クラブ共済事業連合生活協同組合連合会、児童養護施設、入居児・退居児の就労先雇用主 立川市子ども・若者自立支援ネットワーク会議、市役所・区役所、各社会福祉協議会、ブリッジフォースマイル、教育庁、NPO法人 育て上げネット	児童自立支援施設・学校（高校）・大田区社会福祉協議会等 
見学	他県自立援助ホーム、国分寺バプテスト教会 	他県自立援助ホーム、篠原欣子記念財団、大学実習生及び担当教授、参議院 友納理緒議員、日産化学株式会社、フードバンクおた
講師	大学、専門学校のゲスト講師として登壇	特になし

⑰2023 年度事業報告まとめ

とびらの家

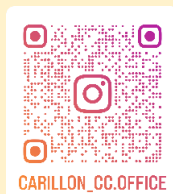
入居者全員が学生及び就学者（大学、専門学校、高校など幅広い学籍）であった。一方で就労のみの社会人の入居者は0名。アルバイトしつつ大学受験を目指す浪人生への新たな奨学金を法人内に創設し、受験準備の伴走をした（無事に合格した！）ケアラーへのアフターケアでは、コロナの影響が下火となり、対面面会実施回数を大きくのばすことができた。他方で、ケアラーへの差し入れや食事提供、施設外面会時の外食のための経費が大きくなりつつあり、補助財源を検討する必要が出てきている。（公費ではアフターケアに関する経費が含まれておらず、現利用者の生活費のための措置費と区別して考える必要があるため）BCP 計画策定を 2023 年度末から専門業者と相談し、2024 年度策定見通し。

夕やけ荘

職員の退職、入職があり体制が安定せず、積極的な利用者受け入れができなかった。大学の実習生を2名受け入れ。内、1名は新入職につながった。新たな取り組みとして、法人契約アパートでの一人暮らし体験事業を実施。振り返りの上、今後も積極的に活用するかは法人全体で検討したい。大田区児童相談所の開設がなくなり、区との連携、地域との関わりについて要検討。利用者ニーズの変化を受けて、あるいは職員の入れ替わりに伴い、業務手順書やホームの機能について検討を重ねている。

カリヨン子どもセンター
公式 Instagram ささやかに運営中♪

2023 年度、公式 Instagram はじめました。
法人の活動、子どもシェルターや
自立援助ホームの暮らしのひと
こまを、ささやかにご紹介。
たくさんの方に知っていただく
契機となりますように！



法人本部（事務局）

① ご支援に感謝申し上げます

2023 年度も、個人、企業、団体の皆さまからたくさんのご寄付を頂戴し、感謝申し上げます。子どもたちの生活を彩り豊かにし、日々関わるおとなの層を厚くするために、カリヨン子どもセンターは皆さまのご寄付を支えといたしております。今後とも、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

② 役員

2024 年 2 月、石田深恵氏が理事を辞任されました。これに伴い 2024 年 6 月、弁護士の熊澤美帆氏が理事に就任されました。このために熊澤氏が評議員を辞任、熊澤氏後任には、弁護士の福田笑美氏が就任されました。

③ 東京弁護士会もがれた翼への協力

Part.28『シン・フォニイ』が、2023 年 10 月 7 日～8 日 豊島区あうるすぽっとで上演、法人として企画に協力。4 年ぶりの有観客による劇場公演となり、全公演で 300 席の客席が満席に。子どもシェルターの活動、子ども担当弁護士、アドボカシー等をキーワードにした物語は、その後 Youtube で動画無料配信も行われました。

④ 子どもシェルター全国ネットワーク会議

2024 年 3 月現在、25 団体（23 地域）が加盟。当法人が事務局を担当しています。

公益財団法人キリン福祉財団からの助成を受け、子どもシェルターの第三者評価について検討するプロジェクトチームにて「子どもシェルター運営指針を」と「子どもシェルター第三者評価基準案」を作成。JANPIA（休眠預金活用事業）による子どもシェルター設置事業の認可を受け、子どもシェルター全国ネットワーク会議として構成団体の業務を受託。財団法人パブリックリソース財団と共に新規子どもシェルターの立ち上げをサポート。2023 年 9 月 30 日～10 月 1 日に、子どもシェルター全国ネットワーク会議 in 広島を実施。

デイケア事業 カリヨンハウス

2023 年度の利用実績 232 件

子どもの希望に応じたメニュー作成、新入居者へハウスメニューのプレゼン、シェルターからハウスまでの送迎をホーム職員と分担して実施。

コロナ禍対応のために導入した電話カウンセリングは「カウンセリングを受けたいけれど、体がつらくて自宅から出られない、電車に乗られない」という声が（しばしば）あり、体制継続。

コロナ禍が明けたと判断し、4年ぶりの対面イベント再開。ろくえもんやしきの充実した環境を活用して、若者との交流や地域との交流等、可能性を拓く方針をもって各種イベントを運営。

- BBQイベント 参加者74名
(ろくえもんやしきにて、2部制)

- クリスマスパーティー 参加者75名
(貸切レストランにて)。

近年増加傾向にあるケアリーバーからの電話・LINEによる相談、SOS対応は「ゆんたく」として集計。

<カリヨンハウスメニュー実施実績 (件)>

カウンセリング	79 (内、電話 52)
学習	16 (内、自習 4)
ピアノ・ギター・ヴァイオリン・ボイトレ・カラオケ	13
鍼灸・美容鍼灸 マッサージ・ヘッドスパ	19
スポーツ (体育館利用)	13
ゆんたく (対面)	32
ゆんたく (電話)	21
ゆんたく (アウトリーチ)	6
お出かけ (映画、猫カフェ等)	15
テレビゲーム	5
パソコン学習、英会話	2
料理・お菓子作り	6
ヘアカット	5
計	232

子ども支援金交付事業

名称	2023 年度実績	支援内容
内海奨学金・支援金	カリヨンの子どもシェルター、自立援助ホームの子ども、OGOB 計 1 名へ支給	高校、短大・高卒認定試験受験生への奨学金・支援金
スタート応援金	カリヨンの各ホームの子ども 13 名へ支給	就職活動、就労を開始するときの援助金。
コストコ奨学金	全国の子どもシェルターの子ども、OGOB 計 27 名へ支給	高校、大学、専門学校へ通学する子どもたちへの奨学金
まなび応援金	全国の子どもシェルター、自立援助ホームの利用者、OGOB、計 523 名を支援	朝日新聞厚生文化事業団の支援にて高校就学または資格取得のための支援金。
みんなのあゆみ応援金	東京都内の子どもシェルター、もしくは自立援助ホームを利用している方、59 名を支援	カタログハウスの支援にて、自立援助ホームでの生活準備資金もしくは自立時応援金。
アミカ支援金	カリヨンの自立援助ホーム利用者 5 名を支援	就労自立を目標としている者への支援金。
受験準備支援金	カリヨンの自立援助ホーム利用者 1 名を支援。	大学進学を目指す者への支援金。



2023 年度決算報告書（資金収支内訳書）									
(単位 千円)									
	合計	法人本部	ガールズ	ボーイズ	とびらの家	タヤけ荘	ハウス	支援金	
事業活動	児童福祉事業収入	154,542	0	32,031	33,105	47,419	41,986	0	0
	経常経費寄附金収入	184,307	34,934	1,013	1,015	1,562	1,842	58,277	85,661
	その他の収入	1,399	210	260	211	365	331	19	0
	事業活動収入計	340,249	35,145	33,304	34,331	49,347	44,161	58,296	85,661
	人件費支出	129,935	13,112	29,379	28,322	30,590	28,530	0	0
	事業費支出	87,097	0	2,346	2,122	3,516	4,258	1,448	73,404
	事務費支出	24,447	7,074	4,573	1,464	6,401	3,002	1,867	63
	その他の支出	883	0	195	211	239	238	0	0
	事業活動支出計	242,365	20,187	36,495	32,121	40,747	36,029	3,316	73,468
	事業活動収支差額	97,884	14,957	-3,190	2,210	8,600	8,132	54,980	12,193
その他	施設整備等資金収支差額	-543	0	0	-304	-238	0	0	0
	拠点区分間繰入金収入	3,190	0	3,190	0	0	0	0	0
	積立資産支出	66,000	0	0	0	8,000	8,000	50,000	0
	拠点区分間繰入金支出	3,190	3,190	0	0	0	0	0	0
	その他の活動収支差額	-66,000	-3,190	3,190	0	-8,000	-8,000	-50,000	0
	2023年度資金収支差額	31,341	11,767	0	1,906	361	132	4,980	12,193
	2022年度末支払資金残高	98,357	62,166	0	0	7,566	4,901	8,172	15,550
	2023年度末支払資金残高	129,699	73,934	0	1,906	7,928	5,034	13,152	27,743

<決算報告書についてのご説明>

- ①児童福祉事業収入は、自治体からの委託費や一時保護委託費、自立援助ホームの利用料等による収入です。
- ②事業費支出は、子どもの生活に関する給食費、水道光熱費、教育指導費、教養娯楽費等の支出です。
- ③事務費支出は、施設管理に関する光熱費、家賃、通信運搬費、保険料、会議費、研修費等の支出です。
- ④法人本部からの繰入金収入および支出は、皆様からご寄付いただいた資金を法人本部でとりまとめ、運営費が不足する各事業に繰り入れたことを指しています。
- ⑤積立資産支出は、とびらの家、タヤけ荘では、将来の施設建物整備に向けて当年度の繰越金の一部を積立て、カリヨンハウスでは遺贈寄付（ケアリーパー伴走支援制度のための特定寄付）の一部を専用の基金にすべく積立て扱いとしました。

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。記録的な猛暑が続いています。お元気でいらっしゃいますでしょうか。日頃からご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。さて、先日、社会福祉を学ぶ大学1年の皆さんに、カリヨンのお話をさせていただく機会がありました。試みに「もし、皆さんが困ったことに直面した時に、電話相談とチャット相談のどちらかを選べるとしたら、どちらに相談しようと思いますか？」とアンケートをとりましたところ、8割近くの方が「チャット相談」を選ばれました。これは、子どもシェルターを必要としている子ども、若者の感じ方と通じる結果だと思います。電話相談が“オワコン（終わったコンテンツ）”になっているのだとすれば、チャット相談を実践していないカリヨンは、重篤な課題に直面していると言えます。対応を考えていかねばなりません。法人設立から20周年、子どもたちの感じ方、ニーズを受け止めるアンテナがさび付いてはならないと思いを強めています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。(I・K)

News Carillon No.54

本誌は、社会福祉法人カリヨン子どもセンター事務局が責任を持って編集、発行しています。
本紙に関するご意見、ご要望、掲載を希望する情報などがありましたら、下記までご連絡ください。

社会福祉法人カリヨン子どもセンター事務局

東京都北区赤羽西 3-33-3

TEL 03-6458-9120 FAX 03-6458-9121

2024年7月30日発行（無断転載はご遠慮ください）